

習字紙の文化について



●Answer

沖縄市・コザ山 球陽寺 前住職
帰依 龍照 (きえりゆうしょう)



Q 我が家の地鎮祭のとき、「お供えしている果物や野菜などの下に、習字紙を敷きなさい」と母から指摘されました。幸い、主人がすぐに買ってきてくれたので、事なきを得ましたが、わざわざ準備しなければならぬものでしょうか？ たった数枚の習字紙のために参加者の皆さんをお待たせして、大変でした。

(今帰仁村・Mさん)

シルカビのさまざまな意味

A Mさん、地鎮祭では、お母さまを通じて、とても素晴らしい経験ができたと思います。

沖縄では、習字紙(半紙)などの白色の紙のことを総じて、「シルカビ(白紙)」と呼びます。シルカビは大切な祭具の一つで、いろいろな使い道があります。

沖縄の民間儀礼である、ヤシチヌウグワン(屋敷之御願)やシバサシ(柴差)、ウグワンブトウチ(御願解)などでは、土地の神さまや台所の神さまにお供えする祭具として、ほぼ全島で重宝されています。

八百万(やおよろず)の神さまは、神秘的で清楚な白色を好まれるといった文化が、シルカビを使用する根

拠になっているようです。

また、シルカビを張れば目隠しになるという考え方もあり、人が亡くなった場合、お通夜から四十九日までの期間、自宅の鏡や賞状額などの光り物にシルカビを張る慣習がある地域や家庭もあります(神さまの象徴である鏡と光り物が似ていることから、光り物をご神体と同様とみなす考えによるもの。鏡やガラス類、ときには液晶テレビの画面にも白い紙を張って、不浄である人の死を神さまから隠す習慣。本土では自宅の神棚に白い紙を張る「神棚隠し(神棚封じ)」という習慣もあります)。

シルカビには多様な考え方があります。納骨の際、事前にお墓を開けたときにヒラチ(平蓋)という墓の内部の入り口に吊り下げる場合は、中にマジモン(魔物)などが入らないようにする「通行止め」の意味もあります。

ウチユクイカビの意味

今回、Mさんがアドバイスされたのは、これらとは少し異なり、ウチユクイ(風呂敷)カビ(紙)としての意味合いが強いかと思えます。本土では、このウチユクイとしての使い方を「苞苴

(つと)」といい、習字紙を使う場合は、「苞苴半紙(つとばんし)」といいます。苞苴は「藁苞(わらづと)」とも呼ばれ、食品(ここではお供え物)を藁などの通気性の良いものに包んだものことです。

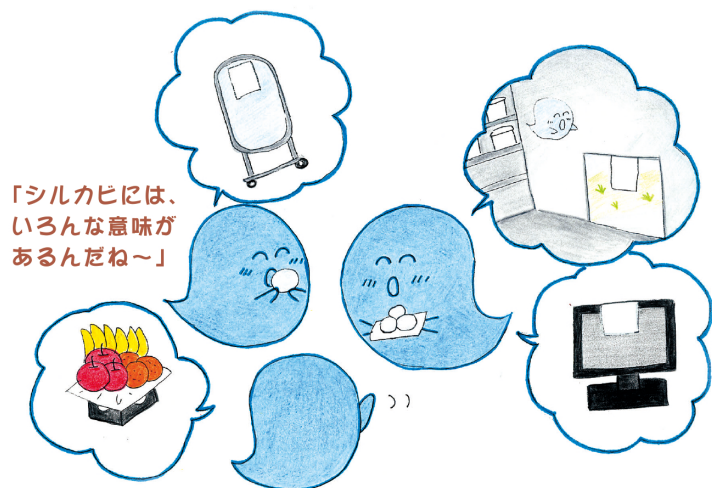
儀式や法要では、神さまやウヤファーフジ(ご先祖さま)に、お供え物をお持ち帰りいただくことが、その成功を表すともいわれています。藁から習字紙に代わりましたが、苞苴(ウチユクイ)を使うのは、そのための知恵なのです。「グソー(後生)へのウサギムン(お供え物)を、ウチユクイ(風呂敷)にして、ウヤ

ファーフジに持たせようねー」と、果物やお菓子の下敷きとして使用される方が、沖縄には多くおられます。

Mさんのお母さまも、きっと地鎮祭のお供え物を、土地の神さまがシルカビに包んで心から受け取って下さり、娘さんたちの家庭を見

守って下さるようにとの思いで、アドバイスされたのでしょ。本当にありがたいですね、Mさん。

ところで、昨年のお盆のこと。ウサギムンにシルカビの下敷きがあったので、そのお家のお母さんに、「グソーへのウチユクイカビを敷かれていますので、きつと先立たれたお父さんにも、お供えが届きますね」とお話ししました。「あらん、住職さん。シルカビ敷いたのは、入れ物が汚れないためであるわけよー」と即答されたときには、ははは、まあ、それはそれとして(汗)、びびくりしましたが(笑)。



「シルカビには、
いろんな意味が
あるんだね〜」

イラスト：帰依ひろ子